

【開催報告】「SOMPO福祉財団賞」受賞記念基調講演・シンポジウム

公益財団法人SOMPO福祉財団は、「SOMPO福祉財団賞※」の受賞記念基調講演・シンポジウムを開催しました。

※「SOMPO福祉財団賞」は、優れた社会福祉学術文献を表彰する制度で、社会福祉の学問的探求を志向する多くの学者・研究者の研究意欲の促進と、わが国の社会福祉の発展に寄与することを目的として1999年に創設しました。

記

1. 開催日時 : 2026年7月18日(土) 13時～17時
2. 場 所 : グランドアーク半蔵門 (東京都千代田区)
3. 参加人数 : 約60人 (大学関係者、学生、企業・行政の担当者、社会福祉団体関係者ほか)
4. 主 催 : 公益財団法人SOMPO福祉財団
後 援 : 厚生労働省、一般社団法人日本社会福祉学会、日本地域福祉学会、
一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟、日本社会福祉系学会連合、
5. 内 容
 <第Ⅰ部> 受賞記念基調講演
 受 賞 者 : 大石 剛史 氏 (東北福祉大学総合福祉学部 准教授)
 受 賞 著 書 : 『ケアリングコミュニティの理論
 ー社会福祉の新しい地平を拓く地域福祉のメタ理論』
 <第Ⅱ部> シンポジウム
 テ ー マ : ケアリングコミュニティのメタ理論が切り拓く
 地域福祉の実践と政策の新しい地平
 パネリスト : 勝部 麗子 氏 [豊中市社会福祉協議会参与・CSW]
 (50音順) 藤井 博志 氏 [関西学院大学人間福祉学部教授]
 山根 純佳 氏 [名古屋大学大学院環境学研究科教授]
 コーディネーター : 平岡 公一 氏 [お茶の水女子大学・東京通信大学名誉教授]
 今井 小の実 氏 [関西学院大学人間福祉学部教授]
6. 参加者の感想 (一部)
 - ・小さなコミュニティの形成が、支え、支えられる関係性を築いていくのだろうと実感した
 - ・小さな好き、興味でつながるコミュニケーションで担い手を作りつつ、社会に啓発していくことの重要性を感じた
 - ・多角的な視点からの話を聞くことができ有意義だった
 - ・シンポジウムでは講演を補う内容で課題を立体的に把握できた
 - ・コミュニティ、看護、福祉、医療、介護の横断的な課題の検討の際に参考としたい
 - ・制度だけではなく実際にどうコミュニティにしていくか、コモンズとしていくのか多角視点からヒントを知ることができた
 - ・ケアリングコミュニティ理論は今後さらに研究を進める必要があると感じた
 - ・様々な場で活躍されている方が、その場で得た知見をもとに議論を重ね勉強になった
 - ・多くの場面で、孤独、孤立の解消が課題と感じた
 - ・ケアリングの考え方は、より早い年代で身につける必要があると感じた
 - ・地域福祉の問題点と課題の一面を理解することができ、有意義だった